

全体的な考察

◎成果 ○今後の改善点

- 今年度は、『つなぐ』をキーワードに『夢につながる挑戦』をスローガンに学校経営をしてきました。
 - ◎各学年の教科の学習や総合的な学習の時間、伝承文化クラブ活動等で、地域の人とかかわりながら学ぶ活動、地域に出かけ見聞を広げる活動を取り入れました。子どもたちは地域の方々や地域そのものと様々な形でかかわり、交流を深めながら、楽しさや喜びを実感できました。また、縦割り遠足で異学年交流を深め、同時に6年生のリーダーとしての自覚も高まりました。○保護者の皆さんからも評価の高い縦割り班活動は今後とも充実させていきたいと考えます。
 - ◎学校の校内研究テーマ「教材・仲間・自分とつながる子ども」～国語・算数における言語活動を通して～を掲げて、子ども同士・子どもと教材・子どもと教師がよりよくつながる授業づくりをめざしてきました。また、教科担任制で授業力を高め、子どもたちにとって「分かる授業、楽しい授業」にも力を入れてきました。2月の学力検査（到達度テスト）の結果を見ても一人一人の学力は伸びてきています。
 - ◎地区民の方にも資源回収を呼びかけ、ご協力いただきました。→ 東日本大震災の義援金になる予定。
 - ◎教育相談、特別支援教育が一体となった生徒指導で、完全不登校はゼロ。交通事故もゼロ。◎詩の暗唱への積極的な取組。◎HPアクセス32万件突破。◎いじめ防止プロジェクト（県事業）の実施。
 - 児童会でも「あいさつ運動」を展開してきましたが、心が通う明るい挨拶の日常化や、地域とつながる挨拶運動の推進をさらに進めていく必要があります。
 - 全校朝会や各種集会で、しっかり整列し集中して話を聴くような姿勢がさらにほしいです。
 - 来年10月の市公開研究発表会では、子どもたちが授業で大いに活躍してくれることを期待しています。
- ◆今年度は、以下のような課題がありましたので、次年度に対策を講じていきます。
 - 運動能力の課題克服のための体力づくり（持久力等）の具体化。○ICTを活用した学習とネットモラル等の情報教育の推進。○神町中学校区3校連携による「いじめのない学校づくり」推進事業の継続。

学校評議員会でのご意見（2月8日開催）

- 完全不登校、交通事故ゼロは大変すばらしい。これは、日頃の先生方のご指導と保護者、地域住民等の連携、協力による成果だと感謝している。
- 「夢につながる挑戦」の学校スローガンのもと、子どもたちが学んだことが本当にいろんな面でつながっていると感じている。毎年毎年新たな挑戦を期待している。
- 校外にコースを設定した校内マラソン大会は、地域を元気にするという点からもすばらしい取組であり、子どもたちもグラウンドを周回するよりは意欲的に走っている。次年度の開催も楽しみにしている。
- 神町小の伝統である「全校群読」は、開拓魂をもった子どもに育てるためにも価値ある活動である。しっかり地域の歴史に目を向けることを忘れずに、今後も続けてほしい。
- 異学年との交流である「縦割り班遠足」は、人間的なつながりの希薄な今の時代にぴったりの活動である。ぜひ、これからも実施内容の検討をしながら引き継いでほしい。

来年度に向けて

- 1 『第6次山形県教育振興計画（2年次）』の理念のもと、本校の実態に即した教育活動を推進し、子どもたちに「生きる力」を育みます。
 - いのちのつながりを意識するような「いのちの教育」の推進。
 - 思考力・判断力・表現力・活用力の育成をめざした授業の創造
 - 地域とのつながりを密にし、地域の一人であることを自覚できるような活動の推進。
- 2 以下のような具体的な取組（案）を検討中です。
 - 「あいさつが良くなった」という評価をさらに高めるため、大きな声であいさつができる工夫した取組の実施
 - 地域、保護者と連携した安全体制を強化し、事故ゼロの継続のための具体策実施
 - 「教材・仲間・自分とつながる授業の創造」探求型の学習を取り入れた主体性の育成、そのための学年間で連携した教科担任制の推進
 - ICT機器の充実で指導者のスキルアップを図り、デジタル教科書を活用した授業の充実
 - 放課後学習支援活動、さくらんぼマラソン大会での応援体制の継続
 - 地域の人材と教育力を生かした「神町アフタースクール」の組織を立ち上げる。等

平成27年度

学校評価特集号

東根市立神町小学校

平成28年3月4日

TEL 47-0035

FAX 47-0275

アンケートへのご協力ありがとうございました

日頃から本校の教育活動について、ご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。神町小学校では、学校教育目標「心豊かに共に学び つながる子どもの育成」スローガンに「夢につながる挑戦」を掲げ、4つの経営の重点に計18項目の具体策を設定し、日々の教育実践に努めてまいりました。ご協力いただいたアンケートを分析・考察した結果、学校の運営の仕方、教育の質の向上、児童の健全育成に向けて更に努力すべき点が明らかになりました。保護者の皆様から頂戴したアンケートの結果を大切に、その中から十分達成しているという成果は更に伸ばし、課題は具体的に対策を立てて改善していきたいと考えております。また、学校と家庭そして地域との連携を十分図りながら来年度の学校づくりに邁進していきたいと思っております。今後とも、本校の教育活動にご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

平成27年度学校経営の重点と具体策

- 1 心豊かな子ども 思いやりつながる学校【いのち】
 - ・明るい挨拶 ・認められる集団づくり ・生徒指導の連携 ・健康の維持増進
 - ・安全教育の充実 ・運動に親しむ資質や能力の育成 ・望ましい食習慣の形成
- 2 共に学ぶ子ども かわり合い共に学ぶ学校【学び】
 - ・確かな学力の育成 ・仲間、教材とのかかわり ・言語活動の充実
 - ・読書活動の推進 ・ICTの活用と情報教育の推進
- 3 つながる子ども 仲間・地域とつながる学校【仲間・地域】
 - ・児童会や縦割り班活動の交流 ・地域とつながる活動 ・さくらんぼISO活動
- 4 家庭・地域に開かれた特色ある学校
 - ・保護者、地域との情報交換 ・開かれた学校づくり ・小小・小中連携の強化

重点研究テーマ

2年目

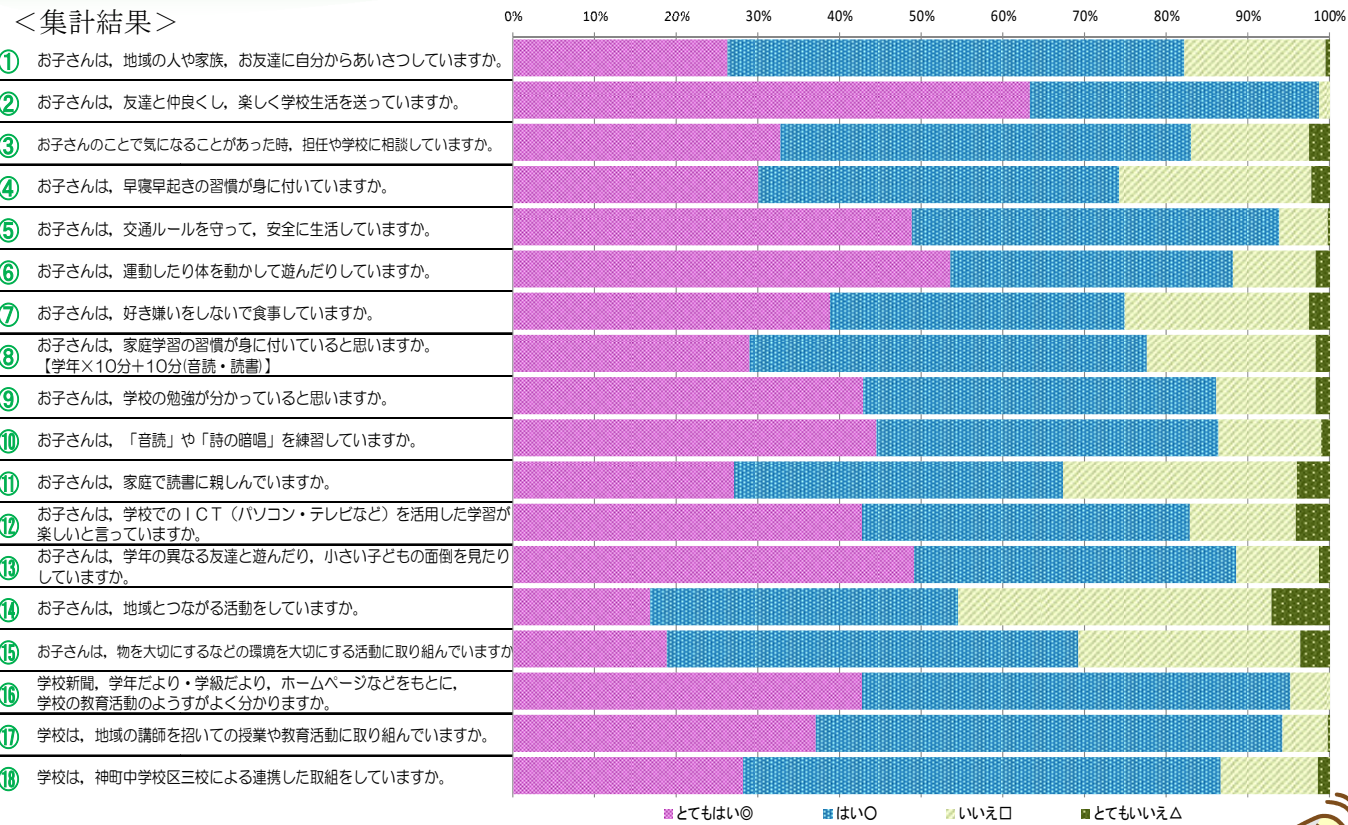
教材・仲間・自分とつながる子ども

～国語科・算数科における言語活動を通して～

めざす
学校像

一人一人いのち輝く学校

保護者アンケートの集計結果と考察



◆記述欄から

- あいさつは、コミュニケーションの第一歩。信頼関係が芽生えると思うので、小さいうちからあいさつがしっかりできる子どもになってほしい。
- 子どもたちが安全、安心に学校生活ができるように、ハード面を整え、ソフト面の円滑化を今まで通りをお願いしたい。
- 子どものことで気になることがあっても、相談しやすい環境にあるので助かっています。今の雰囲気のまま（教育相談体制）継続していただけたらと思います。
- 高齢者や幼児との交流がもっとあるといい。（年長者を尊び、年少者を思いやる優しさを養う）
- 縦割り班遠足の復活、校外コースのマラソン大会がよかった。子どもの刺激にもなるので、今後も新しい取組をお願いしたい。
- ネットに興味をもつようになっているので、便利さと危険性についてしっかり教えてほしい。

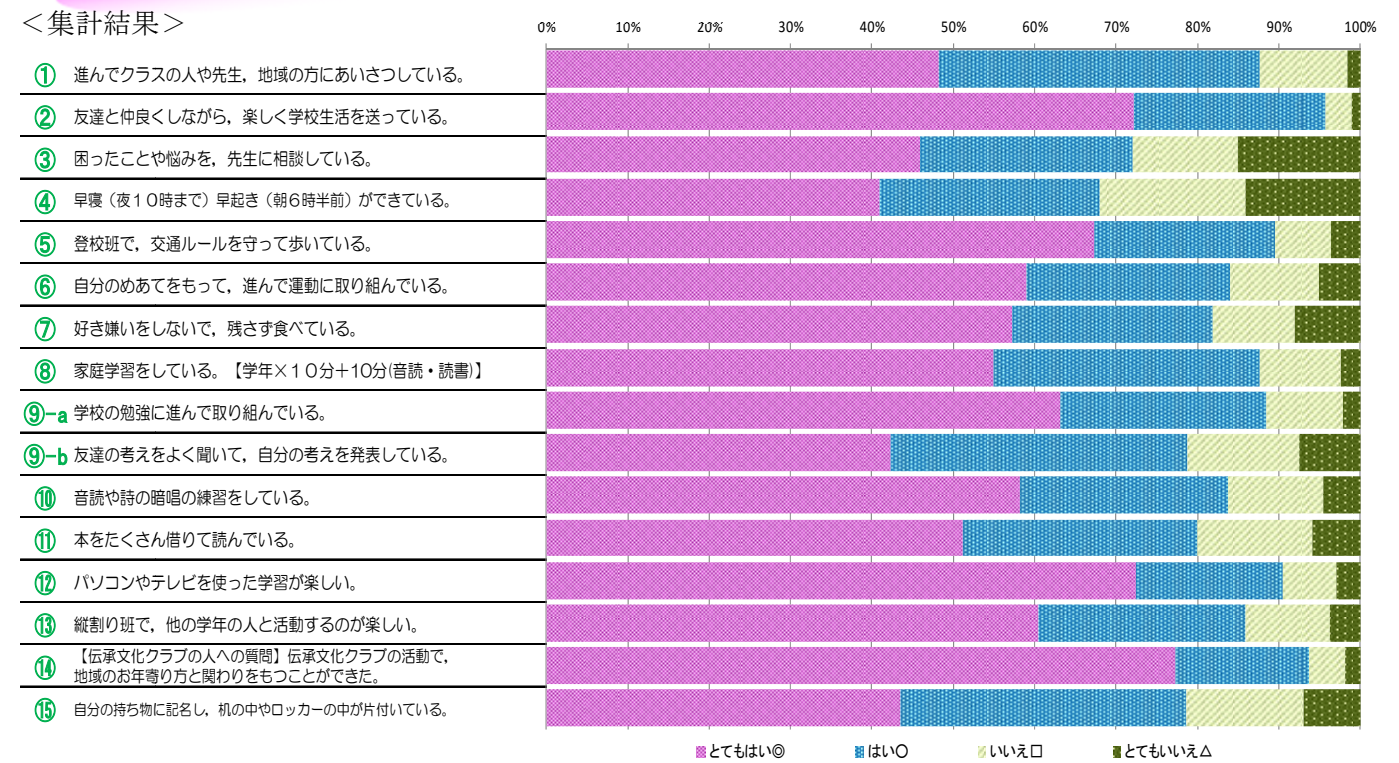
<分析・考察>

- 項目14「地域とつながる活動」は、昨年に比べて改善されましたが、保護者の方の期待度が大きいことがわかりました。学校では、各学年で、実際に地域に足を運び、地域の様々な立場の方から学ぶ学習を重視しています。「ふるさと神町を知り、大切に思う気持ち」を育てるためにも、ご家庭でも、ぜひ地域の活動や子ども会関係の活動への参加を奨励していただければと思います。
- 項目11「家庭での読書」については、貸出冊数から分析すると、学年が上がるほど読書の冊数が減る傾向にあり、また、発達段階に応じた量より質（ジャンル、長めの本等）の課題もありますので、子どもたちの知的好奇心を喚起し、学校と家庭が連携した読書活動推進の対策を講じていきたいと考えます。
- 項目2「友達と仲良くし、楽しく学校生活を送っている」の項目は、16項目中最もよい結果が得られま

した。11月のいじめ調査（児童用・保護者用）でも、6月の調査よりいじめが減ったという結果が得られました。学校では、児童会が中心となり「いじめゼロ大作戦」を展開したり、児童同士のよりよい関わりについて指導したりしてきた成果と考えております。また、縦割り班活動で、積極的に異学年交流を行ったり、縦割り遠足を復活させたりしたことで、6年生のリーダー育成に役立っています。

- 今年度はHPのアクセス数が32万件（年間7万件以上）を突破しました。子どもたちの学習や生活の様子をより多くの方々に知っていただいたと思います。大切な情報を素早くお届けするために、一斉配信メールも活用していきますので、今後ともご理解ご協力をお願いします。

児童アンケートの集計結果と考察



<分析・考察>

- 項目3「困ったことや悩みを先生に相談すること」と項目4「早寝・早起きをする」との2つの項目に課題があることがわかりました。いずれも3割弱の児童が「いいえ」「とてもいいえ」と答えていることを重く受け止めています。1～6年までの発達段階を考慮しながら、教師自身も児童理解に努め、相談しやすい関係づくりに一層努力していく必要があります。また、「早寝・早起き」などの児童の生活リズムづくりをP専門部と連携して取り組んできましたが、今後は、神町中学校区の3校が協力、連携を深めて望ましい生活習慣作り対策を講じていきたいと考えます。
- 項目2「友達と仲良くし、楽しく学校生活を送っている」の項目は、15項目中最もよい結果が得られました。この項目は保護者アンケートでも同様に高評価だったことから、本校の「つながり」を大切にされた様々な教育活動が成果を上げているととらえています。縦割り活動を推進し、異学年の仲間との人間関係づくりのスキルを学ぶことで、「たのしい学校」が実現できるものと考えます。今後も子ども同士のよりよい関係づくり、いじめ撲滅等に積極的に取り組んでいく所存です。
- 学校の校内研究テーマは、「教材・仲間・自分とつながる子ども」です。項目9-b「友達のことをよく聞いて、自分の考えを発表している。」は授業だけでなく、日常生活でも「生きる力」として求めています。次年度の市委嘱公開研究発表会に向けて、授業を中核にした関連指導で、子どもたちの「聞く力」「論理的に説明する力」等を伸ばしたいと考えます。